

## 2016年の年頭にあたって

あけましておめでとうございます。今年は大きな政治・社会問題がいくつも迫ってきています。続く放射能汚染の深刻化、避難者の疲弊、原発再稼働、戦争法、辺野古新基地問題、立憲主義否定、平和憲法破棄、消費税率引き上げ、TPP、等です。過去の戦争体験者は、戦争前夜のようなと言います。しかし、今までと違うところは、多くの人々が自分たちの問題として考え、学び、自分の言葉で意見を言い、行動を起こし始めた、という点です。民主主義も平和も常に鍛えられないと維持できないのですから、このように今、問題がはっきり出されたことは良い事かもしれません。水面下にあるものは必ず表に出てくるものです。あと10年も遅ければ、先の戦争体験者もほとんど生き残ってはいないでしょうから、彼らから直接お話しをお聞きすることも、かなわなくなっていたでしょう。

病気や体調不良と常に向き合う、私たちの仕事で、大切にしていることは、その異常がどのようなものであり、何が原因なのか、を突き止めていく、ということです。ベースには食物アレルギーの見方があります。群馬大学小児科教授の松村龍雄先生が今から半世紀も前に、様々な大人や子どもの病気の原因に、食物アレルギーが関わっているということを、日本で初めて明らかにしたのです。教授在任時、ご自分の持病の慢性胆嚢炎が、牛乳を除去しただけで治ったことから、他の多くの病気にも、食物アレルギーが関わっているのではないかと研究していかれたのです。当時すでに100種近い病気が挙げられていました。先生の本を読み勉強して自分や家族の喘息やアトピー性皮膚炎や膠原病を治すことができ、食物アレルギーの医療に確信がもてました。その後40年程食物アレルギーを基本に治療に携わってきました。食物アレルギー医療のパイオニアとして、松村龍雄先生は、もっと正当に評価されるべきだと思いますが、企業や権威にとっては不都合なのでしょうか。

原因を除き治療する、という先生から学んだ原則を守り続けて、今に至っていますが、それは患者様のご希望でもある、ということを感じています。

それを実践するためにはバイ・デジタルOーリングテストによる検査が、その他の医学的検査と同じように不可欠です。病気の原因には食物、花粉、P・M2.5、黄砂、細菌、真菌、ウィルス、食品添加物、化学物質による食物や環境の汚染、放射能汚染、遺伝子組み換え食品等々、多くの中から、何が問題なのかを明らかにしなければならないからです。左巻とかいう某大学の教授が、Oーリングテストをニセ科学と決めつけていますので、彼の本を読みましたが、Oーリングテストの勉強を全くせずに論じているので呆れ果てました。少なくともバイ・デジタルOーリングテストの創始者である大村恵昭先生の業績を調べ、学び、直接先生に検査法を教えてもらってから本に書くならいいのです。科学があってそこから事実や真実が生み出されるわけではありません。事実や真実がまずあって、その訳を解明していくのが科学です。私は今後も「ニセ科学」と左巻氏のいうバイ・デジタルOーリングテストにより事実・真実をしらべて、治療に役立てたいと思っています。